横田基地に配備 初のC−130J組立て進む

First Yokota C-130J takes shape

June 2, 2016

Original text by Air Mobility & Maritime Missions
Lockheed Martin Aeronautics

【ジョージア州マリエッタ発】C-130を製造しているジョージア州マリエッタのロッキード・マーティン航空機製造工場でこのほど、横田基地に配備される初のC-130Jスーパーハーキュリーズの機体に主翼が取り付けられた。

横田基地第374空輸航空団に現在配備されているC-130Hに替えて、近い将来、新たに14機のC-130Jが導入される予定。

第374空輸航空団は、運用群、使命支援群、整備群、医療群の4つの群で構成されている。それぞれの群の配下に中隊が置かれ、同航空団の使命を支えている。横田基地には、第345戦闘空輸中隊が置かれていた1975年からC-130輸送機が配備されている。

C-130Jは、ハーキュリーズの最新型で、米空軍では1999年2月から導入されている。機体にはロールス・ロイスSE2100D3ターボ・エンジンを搭載し、複合材の6枚のプロペラが装備されている。旧H型に比べ、パフォーマンス性に優れた戦術輸送機だ。

機体に取り付けられるために上部に吊られた主翼（上）

最初のC-130Jは2016年末頃までに横田基地に届けられる予定 *(Photo by Andrew McMurtrie)*

時代の節目の象徴となるスーパーハーキュリーズの組立完成の過程は、チームのメンバーたちに伝えられていく。